こんにちは影○茂○です

2

こんにちは影〇茂〇です　2

EntsCat

https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=19247053

R-18, モ腐サイコ100, モブ霊, 霊幻総受け, 潮吹き, 世界の終焉からww, モ腐サイコ小説50users入り

発作的に書いたモブ霊です。監禁描写、師匠総受け描写、潮吹きを含みます。倫理がまたもやアレ。

いつもいいねやブクマ、絵文字やコメントなどありがとうございます！とても励みになっています🌸
マシュマロもありがとうございます〜！https://marshmallow-qa.com/entscat?utm_medium=url_text and utm_source=promotion

Table of Contents

こんにちは影○茂○です　2

こんにちは影山茂夫です。
今日は僕の服を一部を除いて全部捨てました。
着替えは大学のロッカーに入る分だけにしました。

※※※※※

【LINE 霊幻新隆絶許グループ】

ヨシフ＠政府：またものすごいエネルギー反応が出たんだが

悪霊：霊幻がシゲオの服着て失踪２２回目

ヨシフ＠政府：へえ、彼シャツってやつじゃねぇか

トメ@宇宙：ヨシフさんしっかりして

ヨシフ@政府：お偉いさんがもう「霊幻新隆の手足を切り落としたらどうだ？」とか言い出した

セリカツ：さすがにそれはちょっと

ヨシフ@政府：分かってるよ。そもそもなんで霊幻はそんなに失踪するんだ？

トメ@宇宙：未来あるモブくんに自分は相応しくない、って言ってたわ

ヨシフ@政府：は？

ヨシフ＠政府：その未来が霊幻の失踪のせいで根本的に消失しそうなんだが？

ヨシフ@政府：俺たちの未来なんだが？

トメ@宇宙：落ち着いて

トメ@宇宙：恋は盲目になってるだけだから、霊幻さん

ヨシフ@政府：目玉調達してこい

セリカツ：今影山くんが『わからせ』ようとしてるから、もう少し待って欲しい

ヨシフ@政府：ハラハラ☆ドキドキ☆世界危機一髪

悪霊：霊幻が失踪する度に次元が吹っ飛びかける

ヨシフ@政府：ははははははは

トメ@宇宙：エクボちゃんヨシフさんで遊ばないで
ヨシフさん、しっかりして……大丈夫よ、影山くんも霊幻さんも、本来はしっかりしてる人だから

ヨシフ@政府：本来は

トメ@宇宙：霊幻さん影山くんを５年間くらい焦らしてて、その間に影山くんのクソデカ感情が最終兵器世界規模感情になっちゃっただけなんです

セリザワ：本当に、じわじわと……狂気が這い寄るように……影山くんの霊幻さん関連の行動だけが……おかしくなっていって

悪霊：今となっちゃ霊幻に関してだけシャブ決めたみたいになってるもんな　ウケる

☆テル☆：笑い事じゃないんだよなあ……

律：２人の交際に反対する、そんな時期が僕にもありました

☆テル☆：あ、律くんバイト終わったんだ　お疲れ様

律：ありがとうございます
今となっては、さっさと結婚して欲しい　政府の人と家族ぐるみで痴情のもつれの話するの辛すぎる

トメ@宇宙：可哀想すぎる……

律：影山家は全力で霊幻新隆を娶る体制です　霊幻家とも話済みです

悪霊：www霊幻逃げ道なくて笑う

セリカツ：だから失踪っていう手段になるんだろうけど

ヨシフ@政府：それにしてもあいつ、どこに失踪するつもりなんだろうな？世界中どこに逃げようが、影山茂夫相手なら無駄なのに

悪霊：あの世

セリカツ：

トメ@宇宙：

律：何があっても

セリカツ：絶対に

トメ@宇宙：失踪成功☆させちゃダメだわ

ヨシフ@政府：この世が終わる

☆テル☆：監禁の見張り役、交代でしませんか

律：兄さんやきもち焼きそうだけど……大丈夫かな

ヨシフ@政府：あいつそもそも政府の監視があるのにロストするんだが

律：詐欺師じゃない詐欺師地雷です

トメ@宇宙：影山くん関連だけ敏腕スパイなの？ってパワーを発揮するのよね

悪霊：愛の力

ヨシフ@政府：しまっとけそんなもん　とにかく誰か霊幻新隆を説得できないのか

セリカツ：本当は影山くんが１番霊幻さんの説得に向いてるんだけど……今とち狂ってるからなぁ……

セリカツ：あ

セリカツ：影山くんと霊幻さん相談所に来た

ヨシフ@政府：は！？

※※※※※

こんにちは影山茂夫です。
今日は師匠の首輪にリードを繋いで相談所に来ました。
師匠が「そろそろ俺がやらなきゃいけない事務作業が溜まってる」って言ったからです。

監禁中なので、首輪を繋いだまま相談所に来ました。少し世間の目が痛かったですが、仕方ないですね。
さすが師匠です。テキパキと溜まってる書類を片付けてます。
「霊幻さん、いい加減失踪するのやめたらどうですか」
あ、芹沢さんがいい事言ってくれた。
「モブが正気に戻ったらやめるさ」
「正気……？僕は正気ですよ、あーたん」
「自分が狂ってる事に気が付ける狂人はいないんだよなぁ！？……とにかくモブが変な事言わなくなって、俺との年齢差とか男同士で子供が出来ないこととか、俺みたいな男に引っかかってしまった過ちに気付いて別れようって言い出すまで俺はモブと距離を置きたいと思う」
「何言ってんだコイツ。あっすみません、思わず本音が出ちゃって……なんでそんなにネガティブなんですか、霊幻さん」
「ネガティブも何も……俺の価値なんて二酸化炭素と変わらないだろう？」
「いやちょっと何言いたいか分からないです。あとたぶん結構重要だと思います、二酸化炭素」
「空気とは真逆の存在だよ……俺が居ればきっとモブが息が詰まってくる」
「なるほど」
僕は深く頷く。
「師匠が居れば僕は光合成できるんですね、それだけで生きていけるってことだ」
「お前の発想も凄いな」
エクボが呆れている。どうしたんだろう。
「霊幻さん、影山くんと両思いなんですから、もう観念して普通にお付き合いして下さいよ」
「だってモブが結婚するとかとち狂ったこと言い出すから……」
「まだ割とまともな部類ですね」
「俺と結婚するぐらいならトノサマバッタと結婚した方がいいと思う」
「霊幻さん、卑屈になり過ぎて悪口みたいになってます。トノサマ

バッタと結婚させられるのは流石に影山くん可哀想だと思います」
「え、それトノサマバッタに失礼じゃないか？」
「やめてください論点がズレる……」
「師匠は僕と結婚するのが嫌なんですか？」
「そうじゃないけど、お前まだ大学生だろ」
うぐ。割とまともな突っ込みが入った。
「あなたがたはもはやそういうレベルのカップルでは無いので、霊幻さんは気にせずしのごの言わず影山家に嫁いで下さい」
芹沢さんが助け船を出してくれた。
「何言ってんだ芹沢」
「国を挙げて祝福する準備が整ってる、ってヨシフ……政府の人も言ってるんで」
「師匠、もう結納も済ませてますし、霊幻家から承諾も得てます」
「えっちょっと待って怖い怖い、何それ戦国時代の戦略結婚？結婚って両者の合意が無いと出来ないんじゃなかったっけ？俺の意思は？」
「師匠は僕と結婚してもいいとは思ってるんですよね？」
「思ってるけど、する気は無いぞ」
「#^$%>#÷＊」
よくきこえなかった。
「俺と結婚したらモブは不幸になっちまう」
「ワニ皮のシートベルトが布団の１番上って何ですか？」
「えっ何？大丈夫かモブ？」
「影山くん、ダメだってショックだろうけど現実を受け止めないと！！まずは霊幻さんに影山くんの愛を叩き込もう！！そのためにみんな監禁に協力してくれるから！！」
「うう……ありがとうございます」
「何コレこわい」
ぐすん、と鼻を啜りながら師匠を見る。
師匠はふわりと愛おしいものを見る顔で僕に微笑んで。
「早く俺のこと好きじゃなくなるんだぞ」
チーズに入れるのは３０サイズまでと決まっているそうです。
「愛してるよ、モブ」

僕もですよ、ししょお……（泣）

※※※※※

マンションに戻ってきた。
ご飯を食べて、お風呂に入ってから、師匠のお尻の穴を開発することにした。
「んっ……うぐっ、ぅんっ……」
洗浄は僕がやろうとしたら、師匠が予防接種を受けるのを嫌がるゴールデン・レトリバー並みに暴れて嫌がったので、自分でやって貰った。
今はローションをまぶした中指でぬぐぬぐとナカをいじっている。
師匠の内臓を触る感じがして、なんだか特別なことのようで嬉しい。
「んんっ……んぐううっ……」
でも、師匠、苦しそうだな……。
「大丈夫ですか？」
「なんか……変な感じだ」
うーん。せっかくだから気持ちよくなって欲しいし、ちんちん触ってあげよう。
「あっ！？」
ローションまみれの手でくちゅくちゅって擦ると、ぎくりと師匠の身体がこわばる。
「んんっ……モブ、も、イくから……」
ローションでこすると刺激が強いみたいだ。
「イっていいですよ」
「あ！あ、あぁ……っ」
ベッドに裸で仰向けになっていた師匠が、恥ずかしそうに覆い被さる形の僕から顔を逸らして、眉をひそめて少し高い声を出した。
ぎゅ、とまくらを掴んだ指が、まくらの表面にひだを作って。
何コレエロ可愛いー！！
「師匠、気持ちいいですか？」
僕は嬉しくってまたくちゅくちゅと師匠のちんこをこする。

「あ、あっ！？やだっモブ、俺イったばっかりだからぁっ！！」
「もっとイかせてあげますね」
にこにこ笑いながらずっちゅずっちゅちんこをいじる。もちろんお尻の穴を弄るのも忘れない。何かコリコリしたものに当たるような……？
「あんっ、んぁっう、や……ぁあ……っ！」
また師匠がイった。びくびくと太ももの内側を痙攣させながら、たらたらと力なく精液をお腹にこぼしている。
か……
可愛い……！！
トロんとした顔、初めて見た。
何これめちゃくちゃ可愛い。
「ししょう、かわいい、かわいいです、もっとイってください」
「やっ、やぁ……っ、あんっ、ああああっ」
ぷしゃあ、と師匠が潮を吹いた。顔が真っ赤だ。可愛い。
「もっ……ちんちん、さわらないで……っんあ！」
ちんちん！師匠がちんちんって！！エロい！！
「ぃやぁんっ……ああ……んぅ……」
たいそう盛り上がった僕は、師匠のちんちんから泡しか出なくなるまで、師匠をイかせまくったのだった。
身体をピンク色にして、トロんとした目ではーはー言う師匠、最高でした。

※※※※※

ヨシフ＠政府：なんださっきの爆発は

セリカツ：エクボくんが霊幻さんのハニトラに引っかかってハグしたので、一瞬世界が滅びかけた跡です

悪霊：いやほんと違くて

ヨシフ＠政府：国を挙げて除霊されたいのか

悪霊：色気がすごかった　あれは誰も勝てない　見張り作戦は１人でやっちゃダメだ

セリカツ：情け無い上級（笑）悪霊だな……

悪霊：てめ覚えてろよぜってぇお前も引っかかるからな

・
・
・
・
・
・

セリカツ：すみませんでした

ヨシフ@政府：ハニトラはかなり防ぐの難しいから……

悪霊：ほらみろー！！な！？な！？

トメ@宇宙：あれは傾国だわ……良かった、私が王侯貴族とかじゃなくて……全財産差し出すところだった……

ヨシフ@政府：さて、調味市から世界の終焉を臨みかけてもう数えきれないわけだが

悪霊：世界の終焉から

セリカツ：名作テレビ番組っぽいね

トメ@宇宙：みんな現実逃避し始めた
あ、あの２人の仲、ちょっと進展したわよ

セリカツ：！？

ヨシフ＠政府：！？

※※※※※

こんにちは影山茂夫です。
「もうやらぁ……イきたくな……っぁあん……」
指も３本余裕でぐっちゅぐっちゅ出入りするようになったし、ナカのコリコリでメスイキ？もいっぱいするようにもなったので、師匠の師匠を手コキしながらで失礼いたしますが、今日は師匠と初夜をしようと思います。
師匠と！！
初夜！！
……あ、また日本中に轟かせてしまったみたいです。失敗、失敗。
「し、し、し、ししょう、いいですか」
「ん……優しくな……？」
優しく！！します！！
ぬるっぬるするコンドームを何とか開けて、苦労しながら茂夫に装着する。
「い、入れますね」
「ん……」
ぬぶ、と先端が入った瞬間。
嬉し過ぎて頭の中にハレルヤコーラスが大音量で響いたし、部屋の中が風速１００ノット以上の台風が上陸したみたいにビュンビュン小物が吹き飛んだ。
「もももももモブ！？ちょっと落ちつ……っぁん！」
慌てた師匠に腰を進める。
ペニスが暖かい師匠の肉壁に徐々に包まれていって。
僕は幸せでボロ泣きした。
「全部……入りました。これで師匠は、僕のものだ」
ふ、と苦しそうにしながらも、師匠が柔らかく微笑う。
「馬鹿だな。俺は出会った時から、ずっとモブのものだよ」
瞬間最大風速が１００㎞／ｓを超えました。

「ししょう、ししょう……」
「あ、モブ、もぶ」
抱きしめて揺さぶると、師匠が抱きしめ返してくれる。
じわじわと全身を幸福感が満たしてくれる。
やっと。
やっと思いが通じ合ったんだ……。
「あ、あ、あ、ダメ、もぶ、イく」
前戯で出来上がっていた師匠がナカでイく。
ぎゅうと肉壁にも抱きつかれた僕は呆気なく吐精した。
「はー、幸せ」
「そっか、そっか。もぶは俺の身体が好きなんだな」
師匠は爽やかに笑って。
「モブは俺の身体が目当てなんだな」
そう言って笑うから、金色のサイがインターネットに入浴するんです。

※※※※※

悪霊：wwwwww世界が滅ぶまで××日wwwwww

続